

平成17年(ワ)第428号 損害賠償請求事件
診療経過一覽表

年月日	時刻	診療経過(診断・処置等)	検査値	血小板数	本件手術中の出血量に関して				本件手術後の出血量			証拠
					確認した出血量(ml)	出血時間	合計出血量	時間当たりの出血量	確認した出血量	合計出血量	時間当たりの出血量	
平成15年8月18日	13:05	麻酔開始										乙A1, 2
	13:50	本件手術開始	血圧150/90 脈拍78/分									乙A1, 2
	13:56			血小板13万								乙A1, 2
	14:30	(このころ出血量確認)			320ml	40分	320ml	480ml/h				乙A1, 2
	14:50	直腸切除 (このころ出血量確認)			230ml	20分	550ml	690ml/h				乙A1, 2
	15:00	S状結腸と直腸を吻合終了	血圧130/80 脈拍80/分									
	15:25	(このころ出血量確認)										
	15:40	ドレーンを挿入し、仙骨前面に留置する (硬膜外カテーテルから局所麻酔薬4ml注入)			250ml	35分	800ml	429ml/h				乙A1, 2
	15:45	(このころ出血量確認)										乙A1, 2
	15:52		ヘモグロビン値7.3 ヘマトクリット値22.2	血小板13.1万	40ml	20分	840ml	120ml/h				乙A1, 2
	16:00	下腹部正中切開創にかけていた開腹器を外し、上腹部で横行結腸に人工肛門の造設を開始。	血圧110/62 脈拍72/分		このころ、ドレーンが留置されていたが、腹腔内の出血量の測定はしなかった。							乙A1, 2
	16:45		血圧90/60 脈拍78 ヘモグロビン値5.5 ヘマトクリット値16.0	血小板6万								乙A1, 2, 出血量の測定をしていなかったことについて被告原田本人
	16:50	(このころ出血量確認)			90ml		930ml					乙A1, 2
	16:57			血小板5.8万								乙A1, 2
	17:00	人工肛門造設を終了 麻酔科医が血圧低下を指摘したため、被告医師らは、再度開腹機を装着し、骨盤腔内を検索したところ、約200mlの血液貯留を認めて吸引機で吸引し血液を除去する。				20分	1230ml	900ml/h				乙A1, 2, 被告原田本人
	17:10	(このころ出血量確認)			300ml							乙A1, 2
	17:26	(このころ出血量確認)	ヘモグロビン値12.5 ヘマトクリット値36.1		300ml	15分	1530ml	1200ml/h				乙A1, 2, ただし合計出血量について記載なし
	17:17	(このころ出血量確認)		血小板5.3万	150ml, 250ml, 550ml	15分	2740ml	4840ml/h				乙A1, 2
	17:33		血圧88/58、脈拍110 ヘモグロビン値7.1 ヘマトクリット値20.7	血小板2.8万								乙A1, 2, 出血量について記載なし
	17:40	(このころ出血量確認)			260ml							乙A1, 2
	18:05	(このころ出血量確認)			150ml	25分	2890ml	360ml/h				乙A1, 2
	18:16			血小板2.9万	260ml	15分	3150ml	1040ml/h				乙A1, 2
	18:20	(このころ出血量確認)										乙A1, 2
	18:35	(このころ出血量確認)			160ml	15分	3310ml	640ml/h				乙A1, 2
	18:50	(このころ出血量確認)	血圧80/40 脈拍120	血小板2.3万	170ml	15分	3480ml	680ml/h				乙A1, 2
	19:05	(このころ出血量確認)			170ml	15分	3650ml	680ml/h				乙A1, 2
	19:26		血圧 90/60、輸血計 3600ml	血小板1.1万								乙A1, 2

時刻	診療経過(診断・処置等)	検査値	血小板数	本件手術中の出血量に関して	本件手術後の出血量に関して	証拠
20:20	本件手術終了	血圧90/70、脈拍120	血小板2.3万			ZA1, 2
20:45	回復室に帰室	収縮期血圧80、赤血球数245万、Hb7.5、Ht21.4%、HR(心拍数)100~120台				ZA3の61頁
		収縮期血圧110~120まで上昇				ZA3の61頁
23:00過ぎ	(このころ排液量確認)	収縮期血圧80まで低下(三測表では脈拍数110)				ZA3の61頁, ZA4, 5
1:00		血圧98/56~92/54~102/58, SR110台				ZA3の62頁, ZA4, 5
2:00	(このころ排液量確認)					ZA4, 5
4:30	(このころ排液量確認)					ZA4, 5
5:00		収縮期血圧110から90まで低下, SR、HR130~140台				ZA3の63頁, ZA4, 5
6:00	(このころ排液量確認)	赤血球688万, Hb20.7, Ht60.1% 収縮期血圧90変わらず				ZA4, 5
7:00						ZA4, 5
8:10	(このころ排液量確認)					ZA2
10:30	(このころ排液量確認)					ZA4, 5
10:45	放射線科釘打生明医師によって腸胃動脈造影。					ZA4, 5
11:00	I V R治療開始、塞栓術。左内腸骨動脈をコイルにより塞栓予定するが、ゼル塞栓に変更。ゼル半放で止血する。					ZA4, 5
13:00	(このころ排液量確認)					ZA2
16:00	(このころ排液量確認)					ZA4, 5
23:30	(このころ排液量確認)					ZA4, 5

※ 時刻については、頃を省略している。